

令和5年度職業能力開発論文コンクール「受賞者の声」

令和5年度職業能力開発論文コンクール特別賞（独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構理事長賞）を受賞された長谷川 賢治氏が、コンクール事務局の質問に回答してくださいました。

受賞者の声：

私は愛知障害者職業能力開発校の心理相談員として、障害のある訓練生が職業訓練を安定して受講できるよう、心理面からサポートする仕事に従事しています。その一環として、訓練生の社会適応能力の向上を図るため、ソーシャル・スキル・トレーニング（以下「SST」と略します）の講座を開講しています。

今回の論文のテーマは「障害者に対する職業能力開発」であり、障害者の職業訓練には知識・技術・態度の3つのスキル向上が求められます。職場で求められる態度は社会性の適応能力であり、知識・技能の職能スキルとともに重要なスキルです。

障害者を取り巻く社会情勢は毎年改善してきてはいますが、依然として厳しい現状が続いており、障害者は社会に適応できる能力を身につける必要があります。その中で、訓練生には態度のスキル向上を目指し、就職後に必要な社会性として、良好な対人関係の構築や自己の意思の伝達、業務の連絡・報告・相談ができるように身につけてもらう必要があります。そのためにSSTは有効な手段となります。

障害者は感受性が豊かであるがゆえに感情の振れ幅が大きく、個々の特性や個性に柔軟に対応する必要があります。障害者の支援では個別性が高く、常にPDCAサイクルを回しながら講座を進める必要があります。

本論文は、障害特性、年齢、個性など多岐にわたる課題を抱える訓練生に対し、SSTを実施することで訓練生の意識と態度の変化を確認検証したものです。SSTの実施により多くの訓練生が自己を見直し、これまで抱いていたマイナスの意識から脱却するきっかけをつかむことができたと思われま。訓練生の自身の課題を自己認知してもらうためには、多様な手段で常にアセスメントを行い、講座方法を柔軟に見直し対応することが求められます。個別単位での対応はもちろん、科単位毎での対応を工夫することでより充実した講座内容となっていくと考えます。

日々のSSTの取り組みについては、情報収集、工夫、確認、提供を繰り返しながら、より良い職業訓練を追求していることを、障害者に対する職業能力開発をテーマに論じた論文を評価いただきましたことは、大変に喜ばしく存じます。今後も障害者の職業能力の開発行政の一助として努力し、更なる研鑽を積んでいく所存です。

ご回答いただきどうもありがとうございました。

令和5年度職業能力開発論文コンクール事務局
基盤整備センター